



慶應義塾大学ビジネス・スクール

キューバ・ミサイル危機

5

1962年10月16日、火曜日の朝のことであった。午前9時をいくらか過ぎたころ、ケネディ大統領から弟のロバート・ケネディ司法長官に電話があり、ホワイトハウスに来てもらいたいと言った。彼は、大きな危機に直面していると言っただけだった。それから間もなくしてホワイトハウスに来たロバート・ケネディに、大統領は、U2型機が写真偵察飛行を終え、米情報当局はソ連がキューバにミサイルと原子兵器を配置していることを確信するにいたった、と語った。

これがキューバ・ミサイル危機——世界を核による破滅と人類滅亡の奈落に追いこむ米ソ両核大国対決のはじまりだった。

16日午前11時46分、閣議室で、米政府高官多数に対して、CIA（中央情報局）から正式の事情説明が行われた。写真が提示された。地図と指示棒を手にあらわれた専門家たちは、写真を注意深く見ればキューバのサンクリストバル近くの原野にミサイル基地の建設が進行中だということがわかるだろうと述べた。

驚きのあまり呆然——というのが会議の支配的空気だった。ソ連がキューバに地対地弾道弾を展開させようとは、だれも予想してはいなかった。

これより数週間前、ロバート・ケネディはソ連のアナトリ・ドブルイニン駐米大使と会っていた。彼は、もし米国が地下核爆発実験について、ある程度の取り決めを行うことができるなら、ソ連は大気圏内核実験禁止条約に調印する用意があると伝えにきたのであった。ロバート・ケネディは、彼のメッセージと付属文書をケネディ大統領に伝えると約束するとともに、米政府部門でわれわれはキューバに送られている軍事装備の量について深刻な懸念を抱いている旨を話した。

20

25

本ケースは次の資料から引用しつつ高木晴夫によって1991年に作成された。

「ケネディ 栄光と苦悩の一千日」（原書名：A Thousand Days）

Arthur M. Schlesinger, Jr. 著 中屋健一訳 河出書房刊

「ロバート・ケネディ 13日間 キューバ・ミサイル危機回顧録」

（原書名：Thirteen Days ; A Memoir of The Cuban Missile Crisis）

Robert Kennedy 著 毎日新聞社外報部訳 每日新聞社刊

「ケネディの道」（原書名：Kennedy）

Theodore C. Sorenson 著 大前正臣訳 サイマル出版会刊

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30